

ガンコ親父の



松次郎の「頑固」も「怒り」も筋金入りだったはずだ。しかし、「孫のチカラ」の前になんとか最近の様子がおかしい。

孫には目がない松次郎に、花菜は「お義父さんも、身体を大切にしてくださいね。生まれてくる子供も長く可愛がってもらわなクチャいけないから」と頼んだ。「そうね、怒ってばかりだと血圧が下がる暇がないし、年も考えると身体に良くないわね」と妻の貴代は余計な口をはさんだ。

「お義父さんも身体を大切に」という花菜の言葉に、松次郎は「健康」について考えざるを得なくなった。松次郎にとつての健康は走ることだった。

だが、ゆつくり時間をかけて走る、有酸素運動のジョギングなどは好まない。奄美黒糖焼酎

「島の超特急」の別名を持つ松次郎は短距離は得意でも、忍耐力のいる長距離走は苦手だった。しかし、ここは花菜の願いでもあるし、頑張るしかなかった。

目標はあった方が良く、来年の奄美観光桜マラソン大会出場を心に決めた。休日には走る

時間を作るが、問題は平日だ。夜は毎晩『しまっちゅ伝蔵』を飲まなくてはならないから走れない。結局、早めに起きて走ることにした。

「無理すんなよな。年寄りの冷や水って、良くないんだよ」と、息子の学は、ヤレヤレ、また親父の悪いクセが始まったと思った。

松次郎はそれから、雨の日も風の日も、前世の遺物みたいなランニングシューズのひもを結んで、小学生のように暗い外に向かって飛び出していった。

「私のせいだわ。健康でいて欲しいと言ったばっかりに」と花菜は心配そうに言った。特に最近、ジョギングから帰ってくる時間が遅くなっているようだ。「一途に距離を伸ばして、ハードルを高くしているに違いない。」

「心配だから、お父さんの跡をつけて様子を見てくれない」と、学は花菜から頼まれた。乗り気はしなかったが、翌日学は早起きをした。松次郎の走るスピードは跡をつける学の予想をはるかに上回っていた。2回り半も年が離れているのに、若い自分の方が体力

が大きく劣っている。はあはあと思つたが荒く、足音はドタバタと大きくなっていくが、前に行く松次郎の姿は小さくなっていく。

路地を曲がったところで、松次郎を見失ってしまった。近くに神社の階段がある。まさか、階段を上ったりは？と半信半疑ながら、

またよたと上った。上りつくと、すぐに拝殿の前で深くお辞儀をしていた松次郎の姿が目に入った。やっぱり、こんなところまで休んでいるんだな、と思った

その瞬間、強いショックが学の脳を貫いた。この神社は、たしか安産で有名な神社だった。親父は安産の祈願をしていたのだ。それも、毎日。学は

自分の目の裏が熱くなっているのが判った。その週末の夜、貴代は包装紙に包まれた箱を松次郎に手渡した。「学がお父さんに渡しておいて。開くと最新の軽そうな

ジョギングシューズが入っている。「なんだ、あいつ。なぜ、こんなものくれるんだ。そして、そんなことをすべ人に頼んで。相変わらずやな、ブツブツ」と、松次郎は怒り始めた。貴代は少しほっとした。お父さんはやっぱり、これでなくっちゃね。

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



900ml (25度)



1800ml (25度)



1800ml (25度)

昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統を受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。

常圧蒸留

しまっちゅ
伝蔵

でん
ぞう

ジョギングに乾杯!



the most beautiful
villages in japan
喜界町
鹿児島県

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児に悪影響を与えるおそれがあります。